

「令和３年度第２回茅ヶ崎市いじめ防止対策調査会」 会議録（詳細）

議題	茅ヶ崎市におけるいじめ問題の現状及び対策について 茅ヶ崎市いじめ防止対策調査会（第４期）の調査について
日時	令和４年１月６日（木）１５時～１６時３０分
場所	茅ヶ崎市役所本庁舎４階会議室３
出席者氏名	【委員】 ・ 柳生 和男（清和大学 非常勤講師） ・ 小島 秀一（NPO法人ストップいじめナビ 弁護士） ・ 朝倉 新（茅ヶ崎医師会） ・ 堀 恭子（神奈川県臨床心理士会） ・ 川村 和美（公益社団法人神奈川県社会福祉士会） ・ 瀧本 康二（中央児童相談所） ・ 木村 理江（茅ヶ崎市PTA連絡協議会の代表） ・ 酒田 桂子（茅ヶ崎市小学校長会の代表） ・ 稲川 敏光（茅ヶ崎市中学校長会の代表） 【事務局】 青柳教育指導担当部長、力石学校教育指導課長、牧野主幹、岡田主幹、 山崎課長補佐
会議資料	・ 次第 ・ 協議資料「第４期茅ヶ崎市いじめ防止対策調査会における調査研究テーマに関するアンケート」
会議の公開・非公開	公開
非公開の理由	
傍聴者数	３名

次のとおり会議が行われた。

- 1 開会
- 2 協議等（司会進行は会長）

(1) 事前アンケートの結果報告について

【事務局】

- ・ 第1回調査会において、調査研究テーマに係る協議の内容を5点にまとめ、事前にアンケートを取った結果を協議資料にまとめたので、内容について気になる点や質問があればお願いしたい。

内容確認・質問受付

【委員】

- ・ 特になし。

(2) 茅ヶ崎市いじめ防止対策調査会の今後の取組について

【事務局】

- ・ 協議資料の項番1のアンケート結果を踏まえ、事務局で、今後の調査会の具体的な取組として、大きく3つの内容に整理した。次第に示した3点について協議をお願いする。
- ・ 1つ目は、いじめの未然防止に係る提案である。
- ・ 「心のコップ」アンケートの実施については、アンケートの意見①～③に係る取組として、第1回本調査会後に、小島委員より御提案をいただいたものである。
- ・ 2つ目は、保護者や地域との連携に係る提案である。
- ・ 保護者向けの積極的な情報提供・啓発については、アンケートの意見④に関するものになる。これについては、事務局よりいくつかの取組の方法を提案した上で、具体的な取組について、委員で議論してほしい。
- ・ 3つ目は、いじめ防止に係る児童・生徒理解に係る提案である。
- ・ 「いじめと国語力・コミュニケーション力の相関」については、アンケートの意見⑤に関するものになる。事前アンケートの中で、朝倉委員、堀委員からも専門家としての御指摘・御意見をいただき、コミュニケーション力という文言を追記した。

(1) 「心のコップ」アンケートについて

小島委員より提案内容の説明

- ・ 児童・生徒のストレスの度合いを学校が把握するため、朝の登校時、児童・生徒に配付してあるPC端末に、本人がその時の気分を入力し、学校がその気持ちを共有することを提案する。
- ・ 大阪市では実施済みであり、天気マークを児童・生徒が押すことで、その時の気分の把握をしている。
- ・ 茅ヶ崎市では、教員研修等において、「心のコップ」を使って、自分のストレス度合いを計ったり、説明したりしていると聞いた。「コップ」という児童・生徒がイメージしやすいものであれば、より自分のストレス度合いを表現しやすいのではないかと。表現方法を何杯、何%のどちらにするかなど、具体的なアンケートの内容についてはこれから検討するとして、このような方法で学校が児童・生徒の気持ちを共有することを提案する。

- ・ 大阪市における効果として、教師と児童・生徒のコミュニケーションのきっかけになることが挙げられている。
- ・ また、児童・生徒のアンケートの回答に、急激な変動があった時には、何かあったことが推測される。
- ・ いじめや何かしらの変化の早期発見・認知にもつながっていくと考える。
- ・ いじめとストレスの相関関係は大きくあると言われている。本人だけのストレスを把握することだけに留まらず、クラス全体の変動を計り、ストレスが溜まってきたことが分かると、比較的いじめが起きやすい土壌になっていると判断し、警戒することもできる。
- ・ 定期試験の前にストレスが溜まりやすいという傾向があるかもしれないが、状況を確認しやすい。また、データを積み重ね、「いじめの認知件数」との相関関係を見ていくことによって、認知が進んでいる学校とそうでない学校との相関関係も考えることができそうである。
- ・ 教員や児童・生徒の負担もあるので、いきなり大きく行うのではなく、一部の学校で短期間行っただろうか。まず始めてから順次改善を図り、効果があると分かれば徐々に拡大していくことを提案する。

提案内容に関する質疑応答

【委員】

- ・ アンケートを実施するとして、どのように活用するのかを事前に十分検討する必要がある。事後、何もしないのでは意味がない。集計はどの程度、どのように行うかなどどのように考えているか。

【委員】

- ・ タブレットの Excel 機能を使って処理することが可能である。

【委員】

- ・ 本校では、毎日の朝学活で健康観察、連絡、読書活動を行っている。読書活動は生徒の心を落ち着かせ、穏やかに 1 時間目を迎えられるといった効果もある。教員も忙しい時間帯なので、大阪で行っているマーク程度の確認であれば負担が少ないのではないかと。

【委員】

- ・ 本校では、朝学活で健康観察を行い、1 時間目をスタートする。学校によって朝の活動の状況は異なるが、やることの意味を理解させることや定着させることを考えると、ボタン一つを押すことでストレスを把握できることはよいことだと考える。しかしながら、小学生に「心のコップ」の意味を理解させることは、ハードルが高い。

【委員】

- ・ 個人情報とはどれくらいの範囲で共有されるのか。クラス対抗で競い合いになってしまわないか。大阪での課題は何かあるのか。

【委員】

- ・ 大阪の課題はまだ把握していない。

【委員】

- ・ 小学校低学年の児童が心のコップで「何%」という心の指標を出すことは難しい。よい取組だと思

うが、大阪のように分かりやすい指標があればよい。

- ・ 子ども同士の情報の共有が気になる。教員の負担を減らすため、登校後、児童がシールを貼って「今日にはここにこさんが多いね」などクラスで共有することも考えられるが、児童によってはその日の気分を知られたくない子もいるのではないかな。逆に、「今日はみんなの気持ちが落ち込んでいるから、みんなが明るくなるような新たな取組はないかな」などといった活用も考えられる。いずれにしても一長一短がありそうだ。難しい話だが、指標を出すという点は面白い。

【委員】

- ・ よい取組なので、今挙がってきた問題点を解決できるようにすればよい。ボタンを押せばいいだけにすれば手間がかからない。
- ・ 指標については、小学校低学年と中学生では違うので、3段階や5段階にそれぞれ分けることも考えられる。選ぶ方も集計においても最大5段階くらいが分かりやすい。
- ・ 個人がどのような状況であるかについては、みんなに分からない方がよい。先生が集計した結果や個人の変動が分かればよい。そのようなソフトを組めばよい。

【事務局】

- ・ 現在、児童・生徒に配付してあるタブレット端末のグーグルフォームを利用すれば、アンケート調査の対応はできる。集計結果やその活用についても様々なことが可能である。また、回答結果については、他の子どもは見ることができないように設定することも可能である。

【委員】

- ・ 3段階や5段階の指標だけでなく、「先生ちょっと聞いて」といった項目を一つ追加することで、細かな対応も可能ではないかな。いじめ予防の一つにもなる。

【委員】

- ・ 子どもの気分はその日によって様々な要因で変化するので、先生が毎日チェックする必要があるのだろうか。1か月で1回か2回のチェックと日頃から子どもたちに声をかけることでよいのではないかな。
- ・ 子ども自身が自分の心の変化を認識できればよいのではないかな。しかし、子ども自身に自分のストレス度合いを見える化すること自体がよいこと悪いことかも疑問である。本人に自覚させることが本当に必要なのかな。
- ・ 先生も1か月くらいの間で「この子は暗いことが多かった」というざっくりとした認識でよいのではないかな。子ども自身も忘れてしまったり、めんどろになったりするだろう。
- ・ 保護者の理解や連絡を含め、小学校低学年と中学生では対応が違ってくる。中学生になると、親に知られたくないことも出てくるのではないかな。
- ・ とてもよい取組であり、子どもたちも面白がって取り組めそうだ。
- ・ 1日1日で一喜一憂するのではなく、学期末にまとめて先生が子どものことが分かる程度でよい。

【委員】

- ・ 本所では、子どもとの面接で数字を使うスケーリングを取ったことがある。今の生活が10段階のどれくらいかを聞く場合、数字のみにこだわることなく、足りない部分にはどういうことがあるかを聞くための材料にする。

- ・ 今回の「心のコップ」では、目的をどこに置くかが重要である。いじめというキーワードでは、早期発見・早期対応ということで、日々チェックをしていく必要がある。ただ、子ども自身を見ていくのであれば長いスパンが必要であろう。
- ・ 子ども自身が自分の気持ちを表現するのはすごく難しそうである。朝チェックするのであれば登校前に起きた家庭での状況が影響し、帰りの学活であればその日の学校生活や、家に帰ることへのストレスが影響する。チェックするタイミングで子どものストレスの出方が変わる。
- ・ 先ほど他の委員が話していた通り、ストレスの基準は子どもそれぞれ違っていいと思う。大きな変化があった時、何かがあったはずであり、何かを教えてもらうためには、非常に有効なツールである。
- ・ 学校がこの結果を見てどう使うか、また、保護者とどのように共有していくか、子どもにどう説明していくのか等、丁寧な対応が求められる。
- ・ 先進的な取組なので、何か始めるきっかけになればと考える。

【委員】

- ・ 保護者が子どもに対して、よい回答を強要しないか懸念がある。また、反抗期の子どもは素直に表現するのもかも懸念がある。いじめの問題の根本に関わっている子は、自分の内面を見せないのではないか。素直に回答する子より、強要されたり、偽りの回答をしたりした子どものことの方が気になる。

【事務局】

- ・ 「心のコップ」については、「嫌なことがあると水がたまるコップ」と説明している。「心のコップ」について、いろいろなイメージを持つこともあるので、子どもたちに持たせるイメージを再検討する必要がある。
- ・ これまでいじめ事案の対応をしてきた経験からすると、1週間に1回程度のアンケートにした方がよいと考える。週末の金曜日に、今週1週間を振り返り、先週と今週でどういう変化があったか等を取るだけでもよい。
- ・ ミニマムに数値化しないとか、その子の変化を追っていく等の意見もあったが、プラスとマイナスだけを考えて、変化を示してもらい、「先生に話したいことがある」をつけ足すことでよい。
- ・ 学校で起きたいじめに関して早期に発見したいという趣旨なので、朝よりも放課後、朝から放課後に向けての自分の変化を1日単位で見てもらう方がよい。

【委員】

- ・ 1週間ほどお試しで、操作方法や趣旨説明期間としてはどうか。
- ・ 子どもは素直に表現しないこともあるかもしれないが、どこかのタイミングで少しでも出してくれたり、回答への違和感を先生方が感じとってくれたりすればよりよい対応ができる。

【委員】

- ・ 無理をせずに、試験的にやりながらよりよいものをつくっていききたい。
- ・ 情報共有については、担任の先生と本調査会の委員に限りたい。大阪では教員全体で共有しているところもあるが、それは広すぎるのではないかという懸念がある。
- ・ 定期的ないじめのアンケートも含め、アンケート自体が万能ではないことを認識している。表面に

現れたよい結果だけを見て、教員が注意を払わないことは決してよくない。また、いじめが起きたり、いじめを認識できなかったりした時に、この結果を教員の責任等に使われることがあってはならない。むしろ、変化がない児童・生徒の方が大きな悩みを抱えていることもある。

- ・ 朝にアンケートを取ることを提案したのは、朝の方が定期的に確実にアンケートをとれると考えたからである。放課後でも時間が取れるのであれば、放課後でよい。
- ・ 現場の先生が、初期段階での週1回のアンケートを望むのであれば、対応していきたい。
- ・ 毎日見ることが先生の負担になってもいけない。「先生聞いて」のようなエマージェンシーボタンがあることは賛成する。その時は早めに対応することが必要である。
- ・ 「心のコップ」のイメージについても皆さんの意見を参考にしていきたい。

【会長】

- ・ 日頃から子どもの変化や違和感を先生方が察知することが大切である。
- ・ 何を目的としたアンケートであるかをはっきりさせないと際限なく広がってしまう。
- ・ アンケートを取ることが、教員の大きな負担になるのではないかと懸念が残る。

（２）「保護者向けの積極的な情報提供・啓発」について

事務局より提案内容の説明

【事務局】

- ・ 事前アンケートのとおり、保護者へのいじめに関する正確な情報や積極的な意識啓発の必要性について、複数の委員より御指摘をいただいた。
- ・ 昨年度までの取組として、前回の調査会で保護者向けの情報をまとめた資料として「もし、子どもがいじめたら／いじめられたら【概要版】【詳細版】」の2つを作成した。
- ・ このデータは、茅ヶ崎市のHP上にデータ公開されており、誰でもアクセスして、閲覧することができる。
- ・ 実際に、教育委員会が法律上のいじめ事案の対応に関わる際に保護者に提示するなど、活用しているが、各学校の周知状況を比較すると、ばらつきが見られる。
- ・ 以上の状況を踏まえ、3つ提案する。
 - ① 全保護者に資料配付
 - ② 全校HPに【概要版】のリンク掲載
 - ③ いじめ防止サミットへの保護者参加
- ③ については、今年度同様、児童・生徒が各学校で参加できるオンラインによる開催とし、各学校の保護者も一緒に聞くことで、よりいじめに関する保護者の深い理解を促せればと考える。
- ・ また、これ以外の周知・啓発方法についても皆様より御意見をいただきたい。

提案内容に関する質疑応答

【委員】

- ・ 茅ヶ崎市のHP上に公開されているデータへのアクセス数はどれくらいか。

【事務局】

- ・ 把握していないが、必要であれば、担当課に確認を取りたい。

【委員】

- ・ 今年の春、新入生の保護者会で「もし、子どもがいじめたら／いじめられたら」が配付されたが、多くの保護者が無関心であった。配付後のHPのアクセス数が知りたい。

【事務局】

- ・ 承知した。

【委員】

- ・ 保護者に効果的なリマインドはとっているか。

【委員】

- ・ 今年度、コロナの関連で学校説明会を書面開催としたため、保護者に言葉で説明することはできていない。保護者とのいじめの対応で概要版を改めて配付したが、保護者は以前、配付されたことを覚えていなかった。

【会長】

- ・ 保護者に情報を伝達する方法として、配付物や保護者会で説明することが多い。一方通行の場合が多いので、保護者を集めて双方向で議論していく必要もある。いじめについても人権教育としてありとあらゆる方向で学校や学級担任が示していく必要がある。

【委員】

- ・ 各学校のHPでもいじめ防止基本方針等を掲載しているが、文字が沢山あるためか、なかなか保護者には見ていただけていないようだ。

【委員】

- ・ オンデマンドでパワハラの問題などを見ることがある。コロナ禍で保護者を集めること自体も難しいので、オンラインにていじめの方針を見ていただくことは難しいのか。文章は受け取り方も様々になるので難しい。

【事務局】

- ・ 夏休みの工作の募集などを動画にして子どもたちに周知したことがある。オンラインを媒体として発信する方法は何かしらありそうだ。著作権や媒体の関係もあるので、いじめ関連でどの程度の動画が作れるかは検討しないとわからない。

【委員】

- ・ 県の虐待防止の関連でも児童相談所が Twitter を活用したり、YouTube も作ったりしている。虐待防止キャンペーンの一環として、不二家のペコちゃんとコラボしたものや、茅ヶ崎市でも市の職員が「ちはっさく」という YouTube を発信している。興味を持たないとそこに達しないので、紹介することは必要である。

【委員】

- ・ 媒体にアクセスしやすいように、LINE やサイトを作ってはどうか。

【事務局】

- ・ 「もし、子どもがいじめたら／いじめられたら」については、当事者の保護者にならないと本当の意味で読み込まないのではないかと。いろいろな媒体に掲載しても、興味のある人しか見ない。現状でも興味のある人、当事者意識がある人、困りごとのある人は読んでいる。そういった意味では、こういうものがあることを学校説明会や入学式の後、懇談会などで周知することで、まずはよいのではないかと。教育委員会や学校は、保護者への投げかけの工夫はできる。
- ・ 次に、興味を持った人や必要性を感じた人が、分かりやすく、アクセスしやすいものにすることが大事である。
- ・ 「茅ヶ崎市いじめ防止サミット」に保護者が参加することについてはそう難しいことではないので、来年度から検討していきたい。

【委員】

- ・ 「茅ヶ崎市いじめ防止サミット」に保護者が参加することについてももう少し詳しく説明してほしい。

【事務局】

- ・ 今年度、コロナ禍であったため、会場に参加者を集めて開催することができなかった。各学校を会場とし、オンラインで会議を行った。
- ・ 次年度も同様の形で開催することを検討している。参加児童・生徒と同様に参観の保護者にもご来校いただき、子どもたちのサミットへの参加の様子を見ていただくことと併せて、保護者向けの情報提供もしていきたいと考えている。

(3) 「いじめと国語力・コミュニケーション力の相関関係」について

朝倉委員・堀委員より提案内容の説明

【委員】

- ・ 国語力とコミュニケーション力はちょっと違うので、結び付けること自体に疑問がある。
- ・ 国語の授業の中で国語力を扱っても、実際の場面や対人関係でその力を応用できるのか疑問である。

【委員】

- ・ 国語力では、「この言葉は、こういう場面で、このように使う」というようなものなので、それができるかできないかについては、いじめとは直接的に結びつかないのではないかと。
- ・ 「嫌だ」と思っていることを含めて、自分の思っていることを相手に伝えられるかということは、非常に重要である。そういう意味で、国語力というよりコミュニケーション力である。
- ・ それができる子どもと難しい子どもがいる環境で、難しい子どもをどうサポートできるかということもその集団の成長につながるので、考えてもらいたい。

【委員】

- ・ 子どもの国語力を伸ばすという言葉や国語の教科ということに疑問がある。子どもの現状を見ると、自分の伝えたいことをちゃんと伝えられない。低学年で「嫌だ」ということを伝えられずずっとがまんしてきて、高学年になって爆発してしまうこともあるので、国語力という言葉ではない

のではないか。「伝える力」や「自分の想いを自分で知る」「相手に伝える」「相手の想いを受け止める・押し量る」といったことが大事であると思う。そこをもっと早い段階でできれば大きなことにならないのではないかな。

【会長】

- ・ 「アサーション」という言葉の方が当てはまるのではないかな。「アサーション」について具体的に説明してほしい。

【委員】

- ・ 自分の言いたいことを言うだけではなく、相手のことを思って自分の意見を的確に表現することをアサーションと言う。

【事務局】

- ・ 抽象的な表現だが、国語力の中でいろいろな分類がある。
- ・ 距離感の捉え方や自分の想いと相手の想いの違いのポイントについて、専門的なやり方・プログラムといったものを伝えと、少し理解できるのではないかな。アサーションに係る資料を保護者が読んだときに、自分の子どもに当てはまるので、活用することもできる。具体的なものがあれば示していく方向で検討してもらいたい。

【会長】

- ・ 我々委員の方から指摘ではなく、何かしら具体的な提案があればそれを含めて考えていくことができるのではないかな。

【委員】

- ・ 「NO」という力をどのように育てていくかが大事である。虐待や性被害では「NO」と言えず、何年か経ってその開示が始まるケースがある。子どもの「NO」を受け止める大人がいることを子どもに伝えていく作業が大事である。

【会長】

- ・ ドイツや群馬県では、幼い時から「それ以上やったらストップ」ということを教えている。そういった場面に遭遇した時のストップの仕方についてはトレーニングが必要なので、形態として教えていく必要がある。

(2) ①②③の内、どのテーマについて研究を進めていくか協議。

【委員】

- ・ 情報をきちんと伝えるということは、これだけ膨大な情報があるのでチャンネルがあればよいと今は考えたい。重点でなくてもよいのではないかな。

【委員】

- ・ コミュニケーション力を付けることは、「心のコップ」の取組の中に取り込んでいけるのではないかな。①と③は一緒にできるのではないかな。

【委員】

- ・ アンケートの収集は目的と結果の活用方法を明確にする必要がある。アサーションのためにこの「心のコップ」のアンケートを取ることも考えられる。いじめの予防を第一に考えるために、何を

すべきか考えていくことが優先である。「NO」という力を育てることが大事ではないか。

【委員】

- ・ 「NO」と言われた側もそれをどう受け止めていくかについてもアサーションであるので大事である。

【委員】

- ・ ①については提案された先生からも若干の懸念があると伺った。確実にできることであれば③もいいのかと思う。

【事務局】

- ・ ②については事務局より提案した3つのことを実施していくことでよい。
- ・ ①と③については連動しているので、皆さんの意見を参考にして次回までに再提案する。特に①についてはできることとできないことについて検討し、実際にアンケートを行う先生方の意見を聞いて進めていきたい。

(4) その他

事務局より連絡

- ・ 本日の協議において、今後の取組について①と③に絞っていただいた。今後事務局で準備を進めていく。
- ・ 令和4年度の本調査会の日程は
第1回： 6月2日（木）10：00～ 会場：未定
第2回： 調整中
- ・ 日程上、出席が難しい委員の方が多ければ、後日調整する。

9 閉会挨拶

会長署名 柳生 和男

委員署名 小島 秀一